

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	食品循環型スキームのパートナー（生産者）紹介
取組み内容	<p>【経緯】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都内のスーパー A社は、環境活動に注力しており、食品スーパーを営む傍ら、店舗から排出される食品残渣を利用した堆肥や飼料のリサイクル事業を行っている。 ・ 当行は、A社から「食品循環型スキームのパートナー（生産者）を探している」との相談を受けた。具体的には、まず同社が店舗から排出された野菜クズ等の食品残渣を回収し堆肥や飼料にリサイクルする。その堆肥等を活用して生産者が農産物を生産し、収穫された商品はA社が仕入れるという循環型スキームである。A社はその生産を担ってくれるパートナーを探していた。 ・ そこで、当行が平成23年度から開催している、農業経営者を育成するための経営講座である「アグリビジネススクール」の受講生の中から桃の生産者 B社をA社に紹介した。 <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ A社とB社間の業務提携が成立。 ・ B社は今年（平成27年）の栽培分からA社の堆肥を活用して、これにより栽培された桃は、全量をA社が買い取るようになった。 ・ 初年度は東京都内の店舗のみで販売する。 ・ 次年度以降は栽培量を増やし、東京以外の店舗でも販売する予定。 ・ また、将来的には生産品目も拡大していく予定。 ・ A社は、食品残渣の活用による廃棄物の削減とともに、農業者からの直接の仕入れルートを確保した。 ・ B社は、生産物の安定した販路を確保するとともに、売上増加により、事業規模の拡大につながった。 ・ 当行は、A社から、本件に対する協力姿勢が評価され、運転資金300Mを対応した。

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	地場企業への行員派遣による企業評価力の向上
取組み内容	<p>【取り組み経緯】</p> <p>当行では、取引先の事業性評価を行うにあたって、「目利き力」を有する人材の育成が急務であると認識し、平成24年4月から地場産業を中心とした外部企業へ、年間10名（5年間で50名を予定）の行員派遣を行っている。外部企業において実際にその業務を経験・体験することで、各々の業界の特性やノウハウを習得させ、目利き能力を備えた人材を育成している。具体的な業種としては、宝飾、旅館・ホテル、建設、医療・介護、繊維、和紙、流通・小売業などへ派遣している。</p> <p>【派遣後の活用】</p> <p>派遣期間が終了した行員については、派遣経験を銀行実務における目利きに活かすべく、本部の法人推進部門や審査部門、主たる営業店などに配置している。</p> <p>当行では、取引先の経営課題やニーズが多様化・高度化してきている状況下、なお一層のスピード感をもって実効性の高いソリューションを提供することを通じ、融資創造や前向きな経営改善支援に繋げていくため、専門性の高い人材の知見を結集し、問題解決等に向けて多面的に検討する態勢が必要であると認識している。こうした認識のもとで、平成26年6月に、中小企業の実態など専門的知識や実務経験を有する外部企業への派遣経験がある行員などを中心に「分野別経営支援スタッフ」を組成し、取引先に対する事業性評価に活用している。</p> <p>具体的には、スタッフの目利き力を活かし、営業店とは異なる目線で取引先の事業性評価を行うことにより、課題の明確化と解決に向けた基本的な施策等を「意見書」として整理し、取引先に対して営業店と連携する中で最適なソリューションを提供している。</p> <p>平成27年4月に富士河口湖町の旅館業に対し、旅館への派遣実績のある分野別経営支援スタッフを派遣し、経営者の資質、従業員の接遇および営業力、設備の状況や料理の内容に至るまで、幅広く、同社の経営課題等の洗い出しを実施した。</p>

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	小学校低学年（１～２年生）対象の金銭教育授業の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい社会づくりのために、金銭教育を通じて、「将来を担う子どもたちのお金や物を大切にすの心の育成」、「お金の労働の価値を学ぶことによる感謝や自立の心の育成」などを狙っている。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 <ul style="list-style-type: none"> 小学校低学年向けテキスト「おかねのたび」による金銭教育 紙芝居「おかねのたび」の読み聞かせ 黒板に登場人物のパネルを掲出して、お金の流れの説明 まとめ A．お金の役割、B．お金の大切さ、C．保護者への感謝について ・平成 26 年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 実施回数 2 回 参加人数 51 名 <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年の取組開始以来、学校側の理解のもと道徳などの授業の一環として毎年実施している。 受講された児童から、「とても楽しくお金の勉強ができた」、「お金の物を大切に使います」などの好意的な感想が寄せられており、金銭教育の一助となっている。

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	職場体験学習の受入れ
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校が「道徳」や「総合学習」などの授業の一環として実施している職場体験学習に協力している。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 <ul style="list-style-type: none"> 銀行業務の説明、当行の概況 支店（営業室など）見学 応対・電話マナー、札勘・加算機体験 ロビーでのお客様対応（あいさつ、送迎など） 質疑応答など ・平成 26 年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 実施回数 14 回 参加人数 56 名 <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年多くの学校からの要請により、小学校低学年の職場見学から大学生への講義まで、幅広く受け入れている。「銀行の仕事を知ることができた」「自分の生き方や将来の進路を考える機会になった」などの好意的な感想をいただいております、有意義なキャリア教育の機会として、各学校からの受入れ要請が多く寄せられています。

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	エコノミクス甲子園山梨大会の開催
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定非営利活動法人金融知力普及協会が平成 19 年から開催している全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の趣旨に賛同し、地方大会（山梨大会）を平成 23 年から主催している。 <p>高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているのかを理解してもらおうとともに、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」について、クイズを通して考えるきっかけとしてもらうことを目指している。</p> <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容 <ul style="list-style-type: none"> 筆記クイズ（4 択 50 問のマークシート形式で出題） 早押しクイズ 決勝戦「3 ヒントクイズ」 ・平成 26 年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 参加校数 10 校 参加人数 56 名(28 チーム) <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生に楽しみながら金融・経済を学べる機会を提供できた。また、大会参加をきっかけとして金融・経済に対する興味を喚起できた。 ・開催した 4 回とも参加者は 50 名を超えており、金融経済教育の普及が進んでいる。

銀行名	山梨中央銀行
タイトル	森林整備事業（里地里山保全事業）の実施
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 22 年 9 月に、環境保全活動に対する基本的な考え方を明確化するとともに、役職員一人ひとりが自らの役割を自覚するため「環境方針」を制定した。その環境方針のもと、平成 23 年 8 月から持続可能な社会の形成に向けた環境保全活動として実施している。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 内容 <ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地での野菜栽培等 耕作放棄地（653 ㎡）において、スイートコーンやジャガイモ等を栽培。 森林の整備 荒廃した森林（4,759 ㎡）の間伐、山桜等 600 本の植樹、下草刈り。 平成 26 年度実績 <ul style="list-style-type: none"> 実施回数 5 回 参加人数 381 名（平成 23 年 8 月以降延べ 1,490 名） <p>【取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回約 100 名が参加しており、役職員の環境問題への意識を高めるきっかけとなっている。また、本事業は地元の農業関係者の協力のもと実施しており、地域の皆さまとの親交も図られている。